

東京芸術大学 数理・データサイエンス・ AI 教育プログラム

令和 6 年度実施分 自己点検報告書

令和 7 年 5 月 8 日 芸術情報センター運営委員会

1- 取組概要

東京芸術大学では、高度クリエイティブ人材の育成のため、令和 6 年度より数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識の習得と、それらを社会や芸術分野の中でどのように活かすか、また各々の創作活動に活かす方法を学ぶことを目的とする履修認定プログラム「東京芸術大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を実施している。本プログラムは、芸術情報センターが開講する全学に開かれた科目によって構成され、リテラシーレベル・応用基礎レベルの 2 つのプログラムから成る。

リテラシーレベルでは、「芸術と情報」及び「情報メディア学」の 2 つの授業の単位取得により修了でき、応用基礎レベルでは、令和 6 年度より本プログラムを見据えて新規開設した演習科目「人工知能と創作」に加えて、AMC 開設科目の演習授業のうち指定されたものの 1 つ以上の単位取得により修了となる。

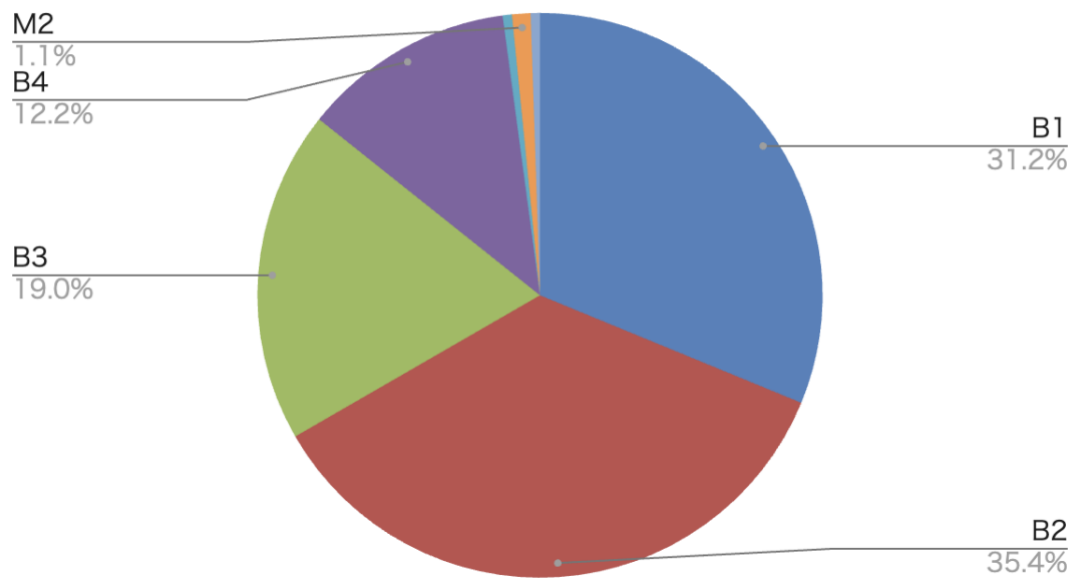
2- 履修・単位取得状況

初年度となる今年度は、リテラシーレベルで美術学部 71 名、音楽学部 115 名が履修（＝「芸術と情報」及び「情報メディア学」のどちらかを 1 つでも履修）し、うち音楽学部 1 名が修了した。

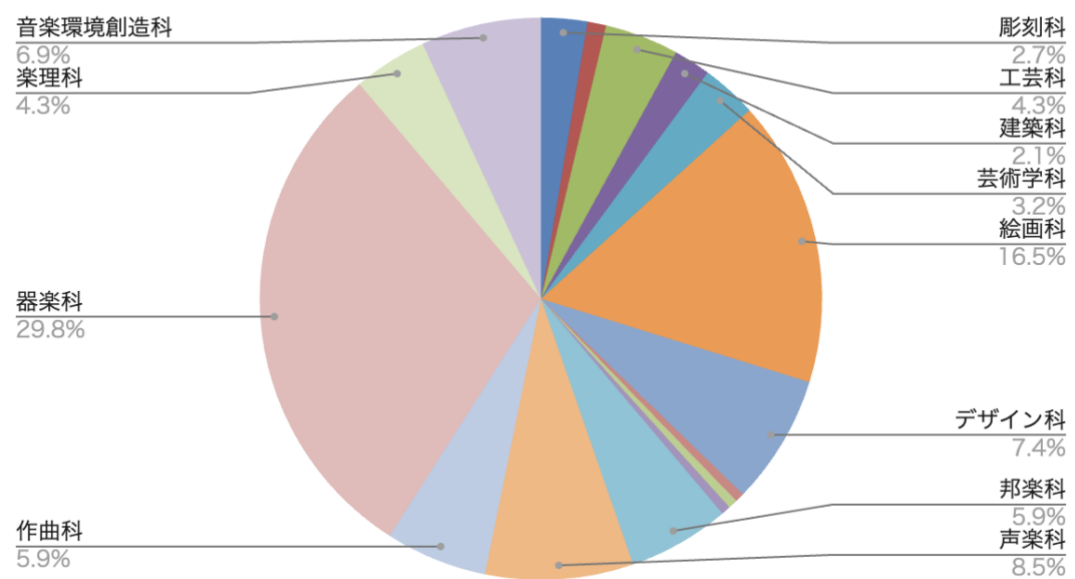
応用基礎レベルでは、美術学部 81 名、音楽学部 29 名が履修（当該授業のうちどれか 1 つでも履修）し、うち美術学部 1 名、音楽学部 3 名が修了した。

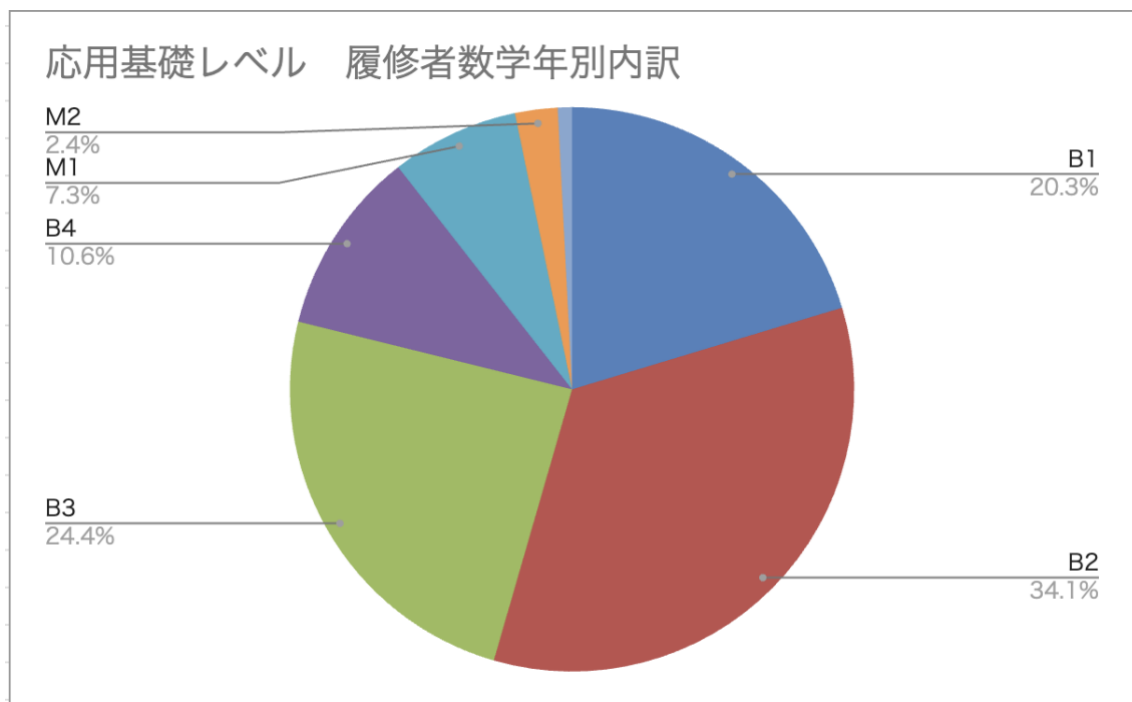
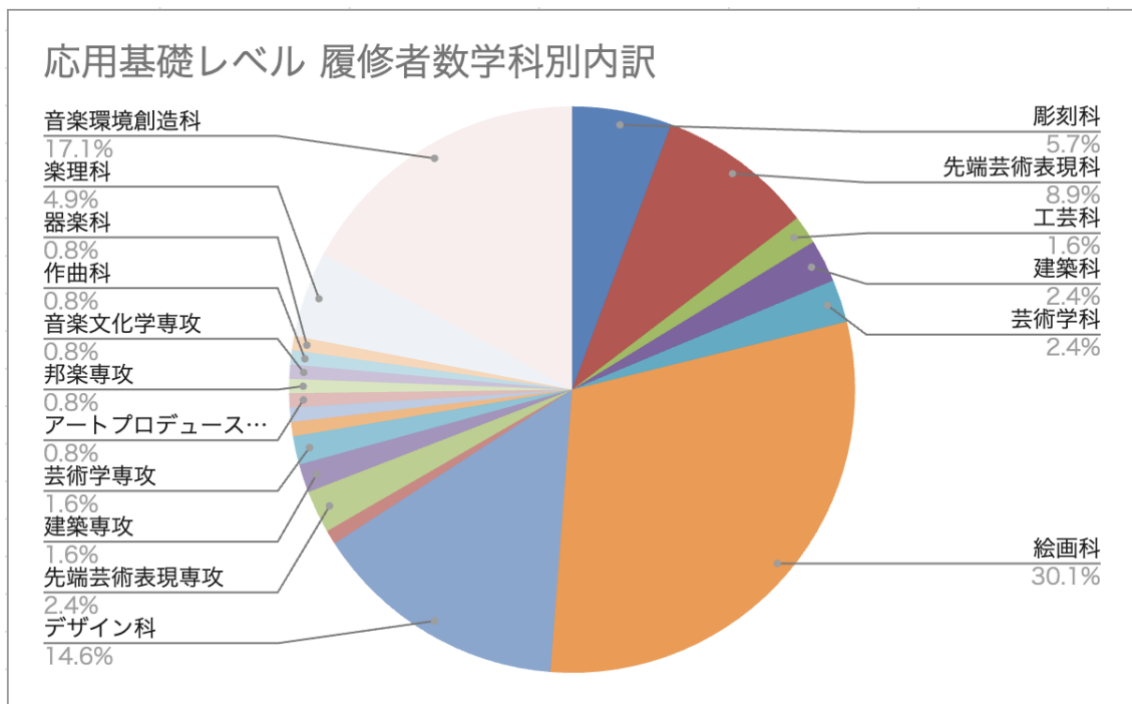
以下にリテラシー、応用基礎それぞれの学科別、学年別の履修者数内訳のデータを掲載する。履修者の内訳には学部 4 年生や修士 2 年生など R6 年度で卒業した学生も含んでいるため、実際の修了候補者数は多くても履修者全体の 70~80%程度ということになる。

リテラシーレベル 学年別履修者内訳



リテラシーレベル 学科別履修者数内訳





3. 次年度以降の改善項目

リテラシーレベルに関しては、「芸術と情報」および「情報メディア学」の双方の単位を取得した人数が少ないが、これは両科目が以前より教職科目（情報機器の操作）であることから、いずれか片方の単位取得を目指す学生が多いためであることが予想される。次年度以降

は、本認定プログラムの周知により両方の授業の単位取得のインセンティブを明確にすることが必要とされる。

応用基礎レベルに関しては、全ての科目が演習科目である都合上、1 授業あたりの履修人数が限られていることが課題となっている。新規開設の必須科目「人工知能と創作」は、他の演習授業と比べて最終課題発表まで参加する学生の割合を高く保つことができ、学生の関心とモチベーションは高かったことが伺える。

学生による授業評価の結果に関しては、全体のアンケート回収率が著しく低いため、次年度はプログラムとして独自のアンケートを実施することを計画している。

また、芸術情報センターに学生が所属していないこともあり初年度はプログラム自体の周知を十分に行えていない。次年度は美術教務・音楽教務係と連携し、より広い範囲の学生に周知できるように努める。